



おおぶの農業だより

2026年春号

— 農業者の声を政策へ — 令和8年度 新設・拡充事業のご紹介

本市は、農業者の皆さまからいただいたご要望を踏まえ、令和8年度当初予算において農業支援施策の新設および拡充を行いました。現場の課題に寄り添い、持続可能な地域農業の実現を目指します。

拡充 **がんばる農業者応援事業補助金**

農業就業人口の平均年齢の上昇を踏まえ、農機・施設整備を行う本事業の対象年齢の引き上げを行い、担い手の確保と営農の継続を図ります。

- 補助対象者を **50歳未満の者から65歳未満の者に範囲を拡充**



拡充 **みどりの食料システム戦略推進事業補助金**

本事業では、有機JAS適合資材のみを対象としていましたが、農薬使用の減少につながる防除対策として、**農薬使用量低減資材の購入費を対象として拡充**します。

※生分解性マルチ及び緑肥の補助も継続

- 害虫誘引・忌避・捕食による防除資材（害虫誘引粘着シートなど）、花粉交配用昆虫を対象品目に追加拡充



新設 **農業者熱中症対策支援事業補助金**

高温下でも安全かつ快適に作業できる環境を整備し、農業の持続性を高めるための気候変動適応策として、**高温対策や熱中症対策に資する設備・用品の導入費を支援する事業を新設**します。

- 対象者：認定農業者・認定新規就農者
- 対象経費：購入費の1/3以内（上限：個人5万円・法人10万円）
- 対象品目：空調機能付き作業着、ネッククーラー、水冷式ベスト、WBGT測定器、日除けテント、遮熱資材等



拡充 **鳥獣被害防止対策補助金**

過去に補助金を受けて防止資材を設置した農地を対象外とする現制度を改正し、経年劣化による交換を対象として拡充します。

また、資材設置等の際に農福連携による取組を実施する場合は補助率を上げます。



- 補助対象：**過去に補助金を受けた農地においても劣化による交換は補助対象**とする。
- 補助率：**農福連携の取組**に対しては**購入費の2/3（通常1/2）**

拡充 **露地野菜等優良品種検討事業補助金**

温暖化による生産現場への深刻な影響を考慮し、持続可能な地域農業の維持に向けた調査・研究活動を支援するため、補助対象を拡充します。

- 露地野菜に加え、**施設野菜、伝統野菜の品種検討を補助対象に追加**



これらの事業は、農業者団体と大府市長との意見交換を行った際にいただいた意見を踏まえ、事業の新設・拡充を行っています。

引き続き、農業者の皆さまからの声を聴き、農業者に寄り添った施策を展開します。



【JAあいち知多青年部】



【4Hクラブ】



【農村生活アドバイザー】

※上記情報は概算決定であり、3月の市議会議決後に確定します。

【重要】補助事業の申請はお早めに！



令和7年度の各種補助事業を活用される方は、必要書類や添付資料をご確認のうえ、お早めにご提出をお願いします。

事前相談が必要な事業もありますので、余裕をもって市役所にご相談ください。

市独自の補助制度のご紹介（抜粋）

補助制度名	補助内容	活用事例	補助率等
がんばる農業者応援事業補助金	農業用機械の購入や農業用施設の整備に係る経費に対する助成	トラクターや農業用ドローンの導入、ハウスの新設など	①スマート農業用機械の購入費の3/10
			②農業用機械の購入費の1/10
			③農業用施設の購入費の3/10
地場農産物ブランド力向上事業補助金	果樹苗木の購入に対する助成	・弱った木の植替 ・暑さに強い品種への切替 ・新たな品種のチャレンジ	果樹苗木の購入費用の3/4以内 【補助要件】 市内で5a以上の作付け拡大又は改植をすること。
みどりの食料システム戦略推進事業補助金	環境保全型資材等の購入に係る経費の補助	・生分解性マルチの使用し、環境への配慮に加え、マルチを外す作業時間を削減 ・生物防除資材を使用し、農薬に要するコストを削減	以下の資材の購入費の1/3以内 ・有機JAS規格農薬 ・緑肥作物種子 ・生分解性マルチフィルム
物価等高騰緊急支援事業補助金	物価高騰による農業者の負担を軽減するための支援	－	市内で営農する認定農業者・認定新規就農者を対象に2025年4月1日以降に購入した出荷用資材・肥料・飼料・燃油の費用1人につき10万円（定額）

健耕サポーター受入農業者を募集しますーマッチングシステム始動ー

市では、農作業を支援する「健耕サポーター」と農業者をつなぐ「マッチングシステム」の運用を昨年12月から開始しました。スマホで簡単に登録可能となり、援農を希望する市民と、農業者のマッチングしやすくなりました。

日程調整や連絡の手間が軽減され、「必要な時期に、必要な人数を募集しやすくなる」ことが大きな特徴です。援農が初めての方でも参加しやすく、農業の魅力を伝える機会にもなります。

サポーターの受入を希望する農業者を随時募集をしています。人手不足の解消と地域交流の一步として、ぜひご登録ください！

健耕サポーターとは？

- ◆平成22年から開始した大府市独自の援農ボランティア制度です。
- ◆サポーターに登録した市民が農業をお手伝いしてくれます。
- ◆健康づくり・地域貢献・農業体験など、参加のきっかけはさまざま！
- ◆健耕サポーターの中には、就農された方もいます。



2025年12月から、もっと簡単に！ マッチングシステム導入

- ✓まずは、ウェブサイト受入農業者に登録！
- ✓作業募集日、作業内容等を登録して応募！
- ✓サポーターがワンクリックで申込・自動マッチング
- ✓登録無料！スポットで人手を頼めます
- ✓スマホで簡単に作業募集できます
- ✓作業の様子を動画や写真で投稿可能



詳しくは市ウェブサイトへ

「みえるらべる」の取得が広がっています

農林水産省は、環境にやさしい取組で生産された農産物の「見える化」を後押しするため、「みえるらべる」の使用を推進しています。

「みえるらべる」により、生産者の環境負荷低減の努力を消費者に伝え、農産物を選択できる環境づくりを進めています。「みえるらべる」を取得し、環境に配慮した取組のPRに活用してください。

市内で取得者が増えています！ 試しに算定してみませんか？

農林水産省が実施している
環境負荷低減の「見える化」で
星3つ取得！

温室効果ガス削減



茜園のいちご
登録番号：2025-1152-E01174

土づくりからこだわった
**ギュツと密な
果肉のいちご**

もみ殻堆肥と有機質肥料等を使い
化学肥料・化学農薬を抑えています
温室効果ガスの削減にも貢献しています



農林水産省が実施している
環境負荷低減の「見える化」で
星3つ取得！

温室効果ガス削減



いちごや ばんの
登録番号：2026-1152-E00027

- ・栽培期間中の
化学農薬・化学肥料削減
- ・地球温暖化の原因の
温室効果ガスの削減に貢献
しています



取得したい方は、市役所・農政局が支援しますのでお気軽にお声がけください。
取得者には、市役所でポップを作成して配付させていただきます。

みえるらべるについては、農林水産省
Webサイトをご確認ください。

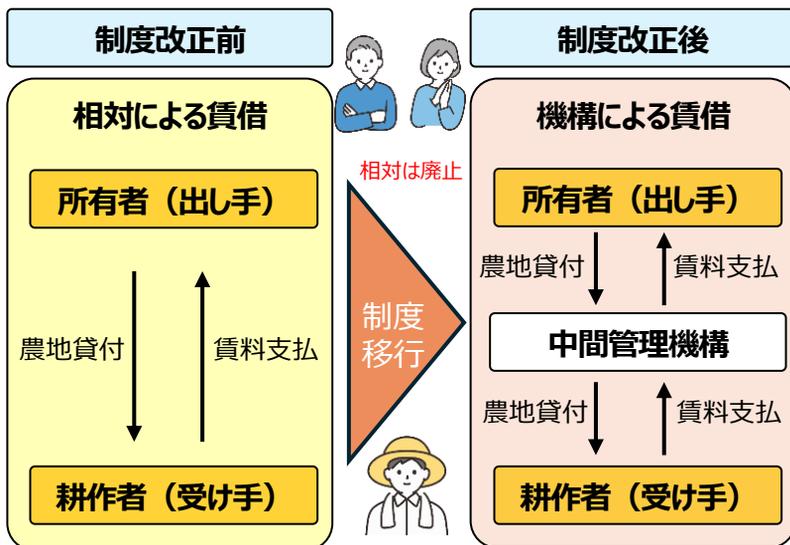
ご確認ください！ 農地の貸し借りの制度・手続が変わりました

令和5年に農地の貸し借りに関する法律が改正され、利用権設定等は、原則として「農地中間管理機構」を通じた契約へ移行しました。現在、相対契約や利用権設定をしている農地についても、**契約期間満了後に更新する場合は、機構を通じた手続きが必要**です。自動更新はされませんのでご注意ください。

現在の制度は、地域計画に基づき農地の集積・集約化を進めるために改正されました。貸し手と借り手の間に農地中間管理機構が入り、契約を行います。

賃料等の支払方法は、機構からの振込となり、**J Aの口座が必要となります**。口座をお持ちでない方は、事前にJ Aで口座開設をお願いします。

引き続き農地の貸し借りを希望される場合は、必ず更新手続きを行ってください。



おおぶニック学校給食米を栽培してみませんか？

大府市は、環境への配慮や食料安全保障の観点から、2024年11月に「オーガニックビレッジ」を宣言し、農業者・市民団体・行政が連携して、有機農業の拡大に取り組んでいます。その取組の一つとして、市内で農薬・化学肥料を使わずに栽培されたお米を「**おおぶニック学校給食米®**」と名付け、市内の小・中学校や公立保育園の給食に提供しています。

一方、水稻の有機栽培では除草剤が使えないため、除草作業の負担が取組拡大の大きな課題となっています。

そこで、2024～2025年度に国の事業を活用し、**水田除草機と自動水管理装置による省力的な栽培を**実証し、**確立しました。**

省力化技術を活用し、水稻の有機農業と一緒に取り組んでくれる方を募集しています。

栽培マニュアルのPRのため、クリアファイルを同封しましたので、ご利用ください。



フォトニュース～地域でつなぐ食と農の取組～



『おおぶ子新春健やか米』

物価高騰対策と、地産地消の推進を目的に、地元のお米を子育て世帯に配付しました。市民の皆さまからは、「大府で美味しいお米が作られていることを始めて知った」という声や、農業者への感謝の声が多数寄せられました。



『市役所で初開催！おおぶニックマルシェ』

市役所1階市民健康ロビーで、市内を中心に知多半島で有機農業に取り組む生産者らが野菜・菓子・弁当などを販売しました。生産者はおいしい食べ方を紹介したり、市民は野菜の詰め放題を体験したりしました。



『“たね”循環プロジェクト』

市、至学館大学、あいち在来種保存会は、地域の伝統野菜を守り、次世代へつなぐことを目的とし、“たね”循環プロジェクトを共同で開始します。これに当たり、三者で連携協定を締結しました。



『地域のみんなでトルネード』

一次産業を軸に、大府の新たな魅力づくりにつなげるため、地元農産物を紹介する展示会・試食会と、東海農政局・福井次長による地域を巻き込むまちおこしをテーマとした講演会を開催しました。